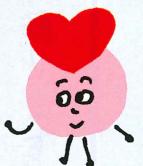




## いこいの広場

広場って、どんな場所かな。  
どんな人が、何のために入る所だろう。



ぼくの家の近くには、小さな広場がある。ベンチが置いてあるこの広場を、近所の人たちは、「いこいの広場」とよんでいる。

ある日、小さな弟にせがまれて、この「いこいの広場」に遊びに行った。広場では、めがねをかけたおじさんが一人、ベンチで本を読んでいた。ぼくたちは広場のはしの方で、持ってきた弟のおもちゃで遊ぶことにした。

しばらくすると、二人の中学生がやって来て、キャッチボールを始めた。この広場は、ボール遊びができるほど広くない。なんとなく気になっていたそのとき、

「君たち、野球はもっと広い所でやつてくれないかな。」



と、とつぜん大人の声がした。ふり向くと、ベンチで本を読んでいたおじさんが、中学生たちに向かって話しかけていた。

「ここが、野球ができるほど広くないということは、ぼくたちだつて分かっています。でも、ぼくたちはただ、キャッチボールをしていてるだけですよ。バットをふつているわけじゃないし、周りの人に迷わくをかけているつもりはありません。」

話しかけられた中学生の一人が答えた。

「確かにキャッチボールかもしれないが、手がすべって、どこかにボールが飛んでいくかもしれない。そうなると、わたしや、あそこで遊んでいる子たちにも迷わくがかかるじゃないか。」

「そうならないように、気をつけてやつています。」

「気をつけていても、失敗はあるだろう。その失敗で、小さい子がけがをしたら、迷わくどころの話ではなく



なるよ。」

「でも、ぼくらは気をつけていますし——。」

そのとき、もう一人の中学生が、話にわって入った。  
「やっぱり、他の場所でやろう。キヤツチボールぐ

らいで、あれこれ言われたくないじゃないか。」<sup>5</sup>

「だつて、ぼくらは、十分気をつけてやつているよ。

それにここは、みんなの広場だろう。ぼくらが

キヤツチボールをしたって、いいじゃないか。」

おじさんと話していたほうの中学生が、言い返す。

「もう、説明するのもめんどくさいよ。どこか、<sup>10</sup>

うるさい人のいない所をさがそう。」

それ以上何も言わず、中学生たちは広場から立ち去つた。

おじさんは、何事もなかつたかのように、また本を読み始めた。<sup>15</sup>

静かになつた「いこいの広場」で、ぼくは弟と遊



編集委員会作◆北沢優子絵

びながら、中学生たちの会話を思い起した。もし、ぼくがあの中学生たちだったら、どうしただろう。キヤツチボールを注意したおじさんに、何と言つただろう。

### ● 責任ある行動とは、どんなものだろう。 考え方・話し合おう

- 二人の中学生がキヤツチボールをしているのを見て、「ぼく」がなんとなく気になっていたのは、なぜでしょう。
- 「それにここは、みんなの広場だろう。」という中学生の言葉を聞いたとき、「ぼく」は、どう思つたでしょう。
- あなたは、二人の中学生に足りなかつたのは、どのような考えだと思いますか。



自分で考えて行動することは、簡単ではないかも知れないね。そんなとき、今日の学習を思い出そう。

